

は じ め に

現在、急速な人口減と少子高齢化が進んでいます。国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると、平成 22 年の人口 1 億 2,806 万人、生産年齢人口割合 63.8%、高齢化率 23.0%に対して、30 年後の平成 52 年には人口 1 億 728 万人、生産年齢人口割合 53.9%、高齢化率は 36.1%になると見込まれています。

本県でも、平成 11 年以降は死亡数が出生数を上回る自然減の状態が続いており、平成 22 年の人口 120 万人、高齢化率 26.6%に対して、平成 52 年には人口 955 万人、高齢化率 36.7%になると推計されています。中でも生産者人口は 72 万人から 50 万人、若年女性人口は 13 万人から 9 万人と、共に 3 割以上減少するとされており、今後人口減少をいかに緩和し、歯止めをかけていくかが大きな課題となっています。

このような深刻な状況に対して本県では、「安心・活力・発展プラン 2005」において人口減少社会の到来を時代の潮流のひとつと捉え、「子育て満足度日本一の大分県」の実現に向けて、「子育ての喜びを実感できる社会づくりの推進」に取り組むとともに、「高齢者の元気づくりと新たな支え合いづくり」などに取り組んでいるところです。

さて、人口減少社会において、ライフステージに応じた県民ニーズに的確に対応し、人口の自然増加、生活環境の改善、持続可能な社会保障を実現するためには、地域の実態や特性の分析が必要であり、その基礎となる保健統計資料はますます重要となります。

この年鑑は、平成 24 年における人口動態統計、医療施設調査、病院報告、地域保健・健康増進事業報告等の調査結果をとりまとめたものです。この年鑑が行政に携わる方々だけでなく、皆様に幅広く活用していただければ幸いです。

結びに、この年鑑を刊行するに当たり、統計調査に御協力をいただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

平成 26 年 11 月

大分県福祉保健部長 平 原 健 史